

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

| | |
|---|-------------------|
| 名称：株式会社 マスネットワーク | 所在地：長野県松本市中条 1-14 |
| 評価実施期間： | |
| 評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 060802 060672 060773 050231 | |

2 福祉サービス事業者情報（平成30年 1月現在）

| | |
|---|-------------------------|
| 事業所名：ローマンうえだヘルパーステーション (施設名) | 種別：訪問介護 |
| 代表者氏名：油井 博一 (管理者氏名)(管理者：六川 真理子) | 定員(利用人数)：(65名) |
| 設置主体：社会福祉法人 ジェイエー長野会 経営主体：社会福祉法人 ジェイエー長野会 | 開設(指定)年月日： 平成14年9月1日 |
| 所在地：〒386-0004 長野県上田市殿城 250-1 | |
| 電話番号：0268-26-8873 | FAX番号：0268-26-0875 |
| ホームページアドレス： http://roman-ueda.jp/ | |
| 職員数 | 常勤職員：2名 非常勤職員：9名 |
| 専門職員 | (専門職の名称) 名 |
| | 介護福祉士 7名 |
| | ヘルパー2級 4名 |
| 施設・設備 の概要 | (居室数) (設備等) |

3 理念・基本方針

| |
|--|
| <p>私たちは、ご利用される方々の思いや日々の生活を大切にしたい支援を行うとともに地域の皆さんとの交流を通して、いつまでも安心して暮らしていける施設づくりに努めます。</p> <ol style="list-style-type: none">利用者一人ひとりの思いや希望が日々の生活のなかで大切にされるよう努めます。利用者と職員が共同して、プライバシーと人権の尊重に努めます。利用者や家族が安心して利用でき、文化的な生活を創造できるよう努めます。地域の人々が施設を囲み、多様な交流と支え合いが広がるよう努めます。 |
|--|

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

| |
|---|
| <p>特定事業所体制でサービスの質を保ちつつ、本人および家族からの多様なニーズや看取り介護など、医療連携を必要とする様々な要請にも対応しています。利用者や家族の思いを尊重し、利用者本位の支援を心掛けています。障害者自立支援事業や総合事業についても受け入れ、できるだけ在宅生活が継続できるようケアマネ、地域包括支援センター、関係事業所、近隣住民等と連携しサービスの質の向上に努めています。</p> |
|---|

5 第三者評価の受審状況

| | |
|---------------|-------------|
| 受審回数(前回の受審時期) | 4回目(平成26年度) |
|---------------|-------------|

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

○認知症ケアを中心とした人材育成と地域づくり

認知症ケアを中心とした地域包括ケアを担う人材育成、認知症ケア研修の継続をしている。認知症ケアの理解を深め、その実践に努めるために、ローマンうえだ主催の認知症ケア研修会等で利用者本人の主体のケアマネジメントを学び、センター方式を活かした認知症ケアを日々、取り組んでいる。他職種でカンファレンスを行う、認知症についてグループ別学習会で事例展開シートを用いて検討しあい学ぶなどして、利用者との関係作り・利用者のいいひと時・良い一日そして、よい暮らしにつながるようにチームで取り組んでいる。

認知症ケア専門士資格取得者、認知症実践者研修・認知症リーダー研修修了者が、認知症ケアの向上、地域で認知症の本人と家族を支えることができるよう、教育・研修委員会が教育システムの構築をしている。職員は、地域の認知症ケアの向上に向けた意識を持って地域の認知症サポーター養成講座等の指導者を務めるなどしている。日本認知症ケア学会に事例発表をして、新しい知識や情報を得る機会を凶る一方で、認知症高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられる地域づくりや認知症当事者を中心とした支援を職員は地域住民と連携して取り組んでいる。

○理念実現に向けて質の高い人材・ケアの質の担保への取り組み

理念の「安心して暮らせる地域づくり、施設づくり」の実現に向けて行動目標として「福祉に携わる者として常に人間性をみがき、知識の習得と技術の向上」を掲げ、教育、研修の大切さを明記している。ケアの最前線で働く職員の質の確保として、当事者視点を大切に認知症ケア研修を継続し地域包括ケアチームとして活躍できる人材の育成に努めている。更に負担の少ない介護方法である北欧式トランスファーを活用しケアの質の担保、職員の腰痛予防として新しいケア文化の先駆けとなっている。

また、新人の採用時研修は年度末から行われ一年間を通して OJT を含めてプログラムに沿って計画的に行われる。他の職員については研修計画シートにより方針が示され理念の実現に向けて研修課題が分析されている。階層別には初任者から、組織運営力、経営力を学ぶ管理者まで計画されている。専門職としての研修、個人が質の向上を望んで希望する研修にも参加でき、施設全体の質の向上にもつながっている。

○地域連携へ法人全体での取り組み

ローマンうえだの施設理念に、「地域の皆さんとの交流を通して、いつまでも安心して暮らしていただける施設づくりに努める」と定め、開所16年となる施設は地域密着として事業展開をしている。高齢化率29%というこの地域で地域の課題を把握し、小学校の学習支援、棚田保全活動(オーナーになる)の参加。地域住民の意向から更に地域づくりの推進のため安心の地域づくりセミナーを法人とともに開催しセミナー卒業者が中心になり仲間づくりがボランティア活動につながりローマンうえだにボランティアに来ている。ボランティアは地域の風を運んでくれ、利用者の声を届ける、世代をつなぐ役割がある。そしてセミナーを受けた人が地域でサロン活動を始め、ローマンうえだ職員が支援をしている。施設利用者もサロンに参加し、地域住民による施設での喫茶活動は利用者を地域につなげている。

地域の課題を地域住民が運び、認知症の理解を深め認知症サポーター養成講座、介護相談等地域住民の声を施設運営に反映し、法人職員すべてが参画し地域づくりに貢献している。

◇特に改善する必要があると思う点

○当事者視点を大切にしたい施設実施計画への工夫

ローマンうえだは、利用者視点を大切にしたいケアを積極的に進め、認知症ケア研修を深め一人ひとりの思いに寄り添える介護計画の作成に努めている。日々介護職員を中心に自分の意向・要望が訴えにくい利用者にもセンター方式の利用により 日々発する言葉や 表情を細かに観察し利用者の思いを多職種連携やケア会議により反映する仕組みはある。しかし、施設実施計画第一表の「利用者及び家族の生活への意向」の欄には、家族意向は明確に示されているが、センター方式などで明らかになった利用者の意向が記載されておらず、当事者視点の介護計画への更なる充実に期待したい。

また、利用者の唯一の楽しみとなる食も利用者の意向の一つでもあり、ユニットごとで行事食、主食などの選択はあるが、更なる取り組みに期待したい。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目(別添1)

内容評価項目(別添2)

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合(別添3-1)

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

(平成30年1月10日記載)

利用者と一対一でサービスをしていく中で、ヘルパー同士のチームワークと利用者への細かい気配り等を評価して頂きありがとうございました。在宅での家族介護負担の軽減、環境整備等おこない、地域での在宅生活が継続できるような支援に、これからも力を入れていきたいと強く感じる事ができました。そのためには、訪問介護実施計画についてのPDCAサイクルを充実させ、サービスの質の向上に努めていきたいと思っております。また、他事業所との連携を図り、信頼して頂ける事業所になれるよう研鑽して参りたいと思っております。

社会福祉法人 ジェイエー長野会
ローマンうえだヘルパーステーション
施設長 六川 真理子